

国際リベラルアーツ学部の学生確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科は、入学定員を80人（編入学定員は設けない）として設定している。この新設学部は、①日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力、②批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力、③異文化に対する親しみと寛容の精神という3つの資質を修得させることを教育研究上の目的としている。特に、教育の主軸となる①英語による高度なコミュニケーション能力の修得を目指して、英語によって行われる授業を受講し、卒業要件として全ての学生に義務付ける海外大学への1年間の留学が可能となる英語力を身につけることを前提としている。このような英語による高度なコミュニケーション能力を修得するためには、学生たちが集中的に英語力を向上させる授業科目の展開が不可欠であり、しかも十分な教育効果を期待することのできる授業運営を確保しなければならない。このため、新設学部では、第1年次から第2年次に配当された英語教育を目的とした必修・選択必修科目については、20人以下の規模で開講することが可能となるよう、80人という比較的少規模の入学定員としている。これにより、上級年次において学生が英語による卒業論文の作成に向けて受講する講義科目についても、最大で80人という規模で運営することが可能となり、双方向型の授業展開が実現するよう配慮している。このように、新設学部では、開設する全ての授業科目において比較的少人数での授業運営が可能となるように、入学定員を設定している。

本学では、国際リベラルアーツ学部の学生確保の見通しを検証するために、高校生を対象とした「山梨学院大学国際リベラルアーツ学部（仮称）入学意向調査」を実施した。この調査の結果によると、高校3年生（平成26（2014）年4月現在）1,239人が本学の国際リベラルアーツ学部を「受験したいと思う」と回答し、このうち1,111人がこの学部「入学したい」と回答しており、入学定員80人に対して13倍以上の高校3年生が「入学したいと思う」という強い入学意向を示していることから、入学定員の充足は十分に可能であると判断している（資料「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書」）。

国際リベラルアーツ学部は、②多角的な思考力に基づく英語によるコミュニケーション能力とともに、③文化的な相違をも乗り越えることのできる精神的な成長も含めたコミュニケーション能力の養成を目指しており、ほとんどの授業科目が英語で行われ、卒業までに1年間の海外留学が義務付けられるなど、日本国内に開設しながら、国際的な学習環境を提供しようとしている。また、②多角的な思考力の涵養と、他分野の英語に触れる機会を確保するために、リベラルアーツ型の教育課程を編成し、教育課程全体で英語による作文プログラムを実施するなど、特徴的な教育システムを採用している。このように、新設学部は非常に特色ある教育システムの提供を目指しており、これと類似した教育システムを採用している学部は、全国の大学の中でも必ずしも多くない。また、首都圏を除いた、山梨県・長野県・静岡県の上記の新設学部のような国際的な学習環境を提供する例があまりみられないこともあり、上記の調査結果のように、多くの高校生たちが入学意向を示したものと推測している。このように、新設学部では、本学の既設学部や近隣大学の既設学部と異なる要素が強いことを踏まえると、新たな入学者の獲得を期待できると考えている。

長期的な観点から、新設学部の学生確保の見通しを分析した場合にも、安定的な学生確保が可能であると判断している。文部科学省「学校基本調査」によると、新設学部が開設される本学キャンパスが立地する山梨県の18歳人口は平成26(2014)年度から平成32(2020)年度までは8,000人台で推移し、それ以降は減少傾向が予測されている。しかし、直近3年間の他県から山梨県内大学への進学者数の推移をみると、東京都・静岡県・長野県からの進学者数は増加傾向にある。「学校基本調査」によると、平成21(2009)年度に山梨県の大学に進学した者のうち、東京都出身者は422人、静岡県出身者は348人、長野県出身者は323人であったが、平成25(2013)年度には東京都出身者が456人、静岡県出身者が366人、長野県出身者が347人といずれも増加していることが確認できる。このように、近隣の都県からは、山梨県内の大学への進学者数が増加傾向にあり、新設学部が本学の既設学部とは異なった入学者層を新たに獲得することを想定できることから、長期的な学生確保についても十分に見込むことができると分析している。特に、山梨県内の大学への進学者が増加しているエリアで実施した入学意向調査の結果、定員の13倍以上の入学意向を示す回答があったことから、長期的にも安定した入学者の確保が可能であると判断している。

② 定員充足の根拠となる調査結果の概要

本学では、この度の国際リベラルアーツ学部設置認可申請書の提出に先立ち、平成26(2014)年4月に高等学校72校の協力を得て、「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』(仮称)設置に関するニーズ調査」において、高等学校第3年次に在学中の生徒(いわゆる高校3年生)9,000人以上を対象とした入学意向調査を実施した。この調査は、株式会社進研アドとの間に業務委託契約を締結して依頼のうえ調査を実施したものであり、調査結果は本学以外の第三者機関によって実施・取りまとめられたものである。この調査は本認可申請に係る書類提出の直前に行われたものであり、調査の対象も新設学部の初めての入学者(開設予定年度の入学者)となることが想定される。平成26(2014)年4月現在に高等学校第3年次に在籍中の生徒に限定して実施している。調査対象の高等学校については、本学の既設学部(法学部、現代ビジネス学部、経営情報学部、健康栄養学部)への入学者が多い山梨県・長野県・静岡県・東京都の高等学校のうちから、この5年間で本学の既設学部への入学者が多い高等学校を抽出して協力依頼を行った。これらの高等学校に加えて、新設学部の教育研究上の目的が英語による高度なコミュニケーション能力の修得を基軸としており、本学の既設学部とは異なり、アドミッションポリシーに「最低限度の英語の学習の力を有すること」を掲げていることから、山梨県・長野県・静岡県のいわゆる上位進学校の中から本学に資料請求を行う生徒が多い高等学校についても調査の対象に含め、協力依頼を行った。調査結果を集計したところ、72の高等学校の協力を得て、高校3年生9,151人分の有効回答を得ることができた。

調査に際しては、本大学名と、設置構想中の学部の名称として「国際リベラルアーツ学部」を掲げて、「設置の趣旨等を記載した書類」で述べた新設学部の設置の趣旨、及び養成しようとする人材像を明示した。このほかに、新設学部の立地とアクセス、学生納付金、教育課程の特色となる点について説明している。調査票では、入学意向を質問する項目において「①入学したいと思う」/「②入学したいと思わない」という選択肢を用意して、入学の意思を明確に確認できるようにしている。以上のように、本学が実施した「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』(仮称)入学意向調査」は、新設学部の入学定員充足の根拠として、客観性・適切性が担保されていると考えている。

この調査の結果、新設学部を「受験したいと思う」と回答した者は1,239人(13.5%)であった。この受験意向を示した回答(1,239人)のうち、新設学部「入学したい」と回答した者は1,111人(89.7%)であった。このように、入学定員80人に対して、15倍程度の受験者が確保されると期待できるとともに、強い入学意向を示した高校生も入学定員に対して13倍を超えていることから、入学定員の充足は十分に可能であると判断している。調査対

象となっている高等学校が所在する山梨県・長野県・静岡県・東京都は、本学の既設学部への入学者の大部分の出身高校が所在している地域であり、前述のように、長野県・静岡県から山梨県内の大学への進学者数は増加していることから、安定的な入学者の確保が可能であると考えている。

また、上記の調査において、国際的な学習環境の提供とリベラルアーツ型の教育課程の編成によって、英語と日本語による、高度なコミュニケーション能力を修得するという新設学部の教育の特色について、その魅力度を調査したところ、質問項目として掲げた4つの項目いずれについても70%以上の高校生が魅力を感じると答えている（「とても魅力を感じる」と回答した者と「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計数で魅力度をはかっている）。具体的には、（A）英語での授業を通じて、英語によるコミュニケーション能力を修得する点については、「とても魅力的に感じる」と回答した者が26.8%（2,458人）、「ある程度魅力的に感じる」と回答した者が52.9%（4,847人）で、両者を合わせると79.8%（7,305人）が積極的な回答を示している。（B）1年間の海外大学への留学を通じて、高度な英語コミュニケーション能力やグローバルな思考力を修得する点については、「とても魅力的に感じる」と回答した者が35.5%（3,253人）、「ある程度魅力的に感じる」と回答した者が43.5%（3,984人）で、両者を合わせると79.0%（7,237人）が積極的な回答を示した。（C）幅広い教育課程の編成により、多角的な思考力を身につける点については、「とても魅力的に感じる」と回答した者が20.6%（1,889人）、「ある程度魅力的に感じる」と回答した者が52.6%（4,815人）で、両者を合わせると73.2%（6,704人）が積極的な回答を示した。（D）学生寮で外国人留学生と共同生活を体験することによって、異文化に対する親しみを身につけるという点については、「とても魅力的に感じる」と回答した者が34.9%（3,193人）、「ある程度魅力的に感じる」と回答した者が46.0%（4,214人）で、両者を合わせると80.9%（7,407人）が積極的な回答を示した。以上のように、新設学部の特色となっている教育システムについては、いずれも70%を超える高い魅力度が示されている。とりわけ、新設学部の教育の主軸となる英語によるコミュニケーション能力の修得に関する項目については、79%以上の魅力度が示されており、現在の高校3年生にとって、新設学部の教育内容が極めて魅力的なものであることを示していると判断している。

以上のように、この調査結果は、新設学部の教育が現在の高校生のニーズに合致しており、高校生に魅力的なものとなっていること、また、新設学部に入学者を示した高校生が入学定員の13倍以上存在したことを示しており、新設学部が入学定員80人を上回る学生を確保する見通しであることを示す客観的な根拠となるものである。

③ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金（学費等納入金）については、入学金200,000円は本学の既設学部と同額であり、教育充実費310,000円（年額、半期分納あたり155,000円）も既設学部の310,400円とほぼ共通である。新設学部の授業料については、1,185,000円（年額、半期分納あたり592,500円）に設定している。なお、卒業までに義務付けられた1年間の海外留学に際しては、留学先大学での授業料の学生負担は発生しない。新設学部の学生納付金の総額（年額）は、初年次（第1年次）が1,695,000円、第2年次以降は1,495,000円となる。また、納入方法は、各年度始めに一括納入か、前期・後期のそれぞれ始めまでに分納（2回）することとして定めている。

国際リベラルアーツ学部は、英語による高度なコミュニケーション能力の修得を教育目的の主軸としており、本学の既設学部と教育課程編成の考え方が大きく異なるため、他の学部との共通の授業科目を設けずに、合計133科目にのぼるすべての授業科目が新設学部のために開講される。英語力を強化するための英語教育を目的とする必修・選択必修科目は、英作文などの課題の添削を十分に行い、授業中のグループによる練習を教員がコントロールすることが可能となるように、20人以下の規模で行うことになる。また、英語力を着実に向上させるために、入学時点の英語力に応じてクラス編成を行うことになる。英語教育を目的とする必修・選択必

修科目と英語による卒業研究作成をサポートするために開設される授業科目は、すべて専任教員が担当するように教員配置を行っている。新設学部の専任教員数は 26 人であり、収容定員 320 人に対して専任教員 1 人あたりの学生数は約 12.3 人という充実した指導体制を整備することが可能となっている。新設学部では、海外留学前の学生指導のためにアカデミック・アドバイザー制度を採用することにしており、入学定員 80 人と専任教員数の関係は、専任教員が十分な事前・事後指導を行うことができる規模としている。留学準備が行われる第 2 年次から第 3 年次の 2 学年計 160 人に対する専任教員 1 人あたりの学生数は概ね 6～7 人になり、留学中の学修計画や単位互換を前提とした授業科目の履修についても適切な指導と助言が学生に対してなされる体制を整備することが可能となっている。

このように、新設学部では、1 年間の海外大学への留学とそれを可能とする事前・事後指導の体制、特に英語による高度なコミュニケーション能力の修得のための授業科目の充実のために、80 人という小規模の入学定員の設定に対して、26 人という多くの専任教員を配置しており、それによって提供される教育も十分に魅力的なものとなっており、学生納付金もそれに値するものと考えている。

また、わが国の私立大学が開設しているグローバル教育を目的とする学部のうち、海外留学が必須とされ、かつ、少人数のリベラルアーツ型教育を特色としている学部では、学生納付金の総額（年額）が 1,400,000 円を超える例もみられる（例えば、早稲田大学国際教養学部の場合、平成 26（2014）年 4 月現在の学生納付金の総額（年額）は、初年次が 1,611,000 円、第 2 年次が 1,419,000 円、第 3 年次が 1,426,000 円、第 4 年次が 1,474,000 円である）。新設学部では、交換留学協定に基づいて留学先大学での授業料等は学生の負担とならない。このように、留学中に、留学先での学費負担が別に発生しないことを考慮すれば、新設学部の学生納付金の設定も十分に魅力的なものを受け入れられると思われる。新設学部が計画している海外留学は、単語や語彙などの英語力の強化のみを目的としたいいわゆる語学留学のような形態ではなく、交換留学協定を締結した大学が提供する英語による教育プログラムにおいて専門的な科目を履修してそこで修得した単位を科目個別の認定方式で厳格に互換するものであり、このような交換留学プログラムを提供する大学は、国内ではごく少数である。このような海外留学に備えて、キャンパス内の学生寮において外国人留学生との共同生活を経験する機会を設けるなど、留学に向けた独自の教育プログラムも整備しており、他大学の事例とは十分に差別化が可能であると考えている。

「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』（仮称）設置に関するニーズ調査」においても、初年度の学生納付金総額が 1,695,000 円となることは明示しているが、前述のように入学意向を示す者が数多く存在していることから、現在の学生納付金は妥当な範囲内にあると判断している。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

新設学部の学生確保に向けた具体的な取組としては、設置認可申請書の提出に合わせて、以下のような PR 活動を開始する予定である。新設学部を含めた PR 活動については、高等学校関係者を対象にした企画と、受験生とその保護者を対象とした企画を展開し、いずれの場合にもメディア等を通じた広報によって、企画の内容を十分に周知したうえで実施するように配慮している。

高等学校関係者を対象とした PR 活動として、本学では、例年、高等学校約 300 校に高校訪問を行うとともに、高等学校関係者を招いた進学説明会を開催している。本年度も、既設学部と新設学部の PR のためにこれらを実施する予定である。高校訪問に先立って、本学の既設学部への入学者の出身県上位 3 県である山梨県・長野県・静岡県の地元新聞（山梨日日新聞・信濃毎日新聞・静岡新聞）に、設置認可申請中の新設学部の紹介広告を掲載する予定である（広告には、「設置認可申請中」であること、掲載内容は「予定であり、変更があり得る」ことを大きく

明確に記載する)。新聞広告については、新設学部の紹介に絞った内容で全3回の掲載が決定しており、いずれも新設学部の教育上の特色や魅力を紹介する情報に加えて、関連するイベントなどの告知も含めることによって、個々の企画に関する情報の周知を行うことにしている。具体的な掲載の時期としては、高校訪問の開始、及びオープンキャンパスの開催にあわせて、6月上旬・8月上旬を予定し、11月上旬にも掲載を予定している。6月上旬の広告では、高校訪問や高等学校関係者を対象とした進学説明会に向けた情報を盛り込み、8月上旬の広告では、来場者の多い8月以降のオープンキャンパスに関する情報を盛り込むことにしている。また、11月上旬には認可申請手続の進捗状況を踏まえた上で、入試関連の情報を盛り込む予定である。

新聞広告の掲載直後(6月上旬)から高校訪問を開始することを計画している。高校訪問については、約300校について複数回の訪問を実施している。新設学部のPRにあたっては、今回実施した「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』(仮称)設置に関するニーズ調査」の分析結果も踏まえて、複数の高等学校について訪問回数を増やすことを検討している。「(1)学生の確保の見通し」の「① 定員充足の見込み」でも示した通り、長野県・静岡県から山梨県内の大学に進学する者の数は増加傾向にあり、これらのエリアには新設学部と競合するような学部があまりみられないことから、新たな入学者の獲得のために、これまでよりも積極的なPR活動に努めることにしている。

このほか、本学では高等学校に対する進学説明会を実施しており、本年も6月25日(水)に本学キャンパスにおいて開催することが決まっている。この説明会には、例年50人程度の高等学校関係者が出席しており、この機会に新設学部の概要を説明する(説明は、「設置認可申請中」であることを考慮のうえ適切に行う)。また、本年度は、長野県においても同様の進学説明会を開催する計画であり、日程の調整を進めている。

高等学校在学中の生徒やその保護者などを対象としたPR活動としては、インターネットのホームページ、進学ガイドなどの雑誌、オープンキャンパスを通じた広報活動を実施している。新設学部については、交換留学協定に基づく交換留学生の受け入れのために、日本語と英語による専用のホームページを開設し、上記の新聞広告とあわせて6月上旬に公開する予定である。また、株式会社進研アドが高等学校に向けて配布している『志望校検討ガイド』(東日本版、発行部数は16万部)にこの新設学部の特設ページを確保して、新設学部の新たな取組みを伝える。また、8月上旬に予定する新聞広告の掲載にあわせて、株式会社リクルートマーケティングパートナーズと株式会社進研アドが開設している進学案内を目的としたホームページ内に、この新設学部の特設ページを開設することになっている。高校生やその保護者などを対象としたオープンキャンパスについては、6月28日(土)、7月19日(土)・20日(日)、8月23日(土)・24日(日)、9月20日(土)、10月18日(土)の合計7回を本学キャンパスで実施する予定である。いずれのオープンキャンパスにおいても、新設学部の特設会場を設けて、学部の魅力を伝える説明会を開催し個別相談に応じる。個別相談については、日本語と英語のいずれの言語でも対応可能なようにスタッフを配置する。新設学部の紹介については、教育の特色や留学までの準備・サポート体制など新設学部の強みをアピールすることに加えて、新設学部における英語教育を実体験することができる企画などを用意して、高校生に教育上の魅力を実感してもらえるように工夫することになっている。保護者から質問を受けることの多い、留学までの準備や大学によるサポート体制、就職面でのサポート体制については既設学部においても個別の相談コーナーを設置して対応している。また、設置認可の後には、11月上旬に新設学部独自のオープンキャンパス(入試説明会)を開催することを予定している。特に、入試方式に関する問い合わせが多い実情を踏まえて、受験生に対して正確な情報が短時間の間に行きわたるように、ホームページ等による情報発信だけではなく、高等学校関係者や受験予定者・保護者に対する説明会を開催することを計画している。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

国際リベラルアーツ学部は、グローバル化が進展している今日の日本社会において、新たな国際教育を実現する必要性に基づいて、「日本文化への深い理解と広い国際的視野をもって社会に貢献する人間の育成を目指し、豊かな教養と創造力を備えた人格の形成を図る。」という本学の教育理念を実現するため、次のような能力を修得した人材を養成することを教育上の目的としている。

- ① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力
- ② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力
- ③ 異文化に対する親しみと寛容の精神

現在のグローバル化の時代にあっては、本学の教育理念にいう広い国際的な視野から物事を捉える能力とともに、新しいものを生み出す創造的な思考力の涵養が求められていることは間違いない。そこで、この新設学部では、英語による豊かな教養教育を通じて、学生たちが、②自分自身で批判的な思考ができるというだけでなく、新しいものを生み出す創造的な思考力や、グローバルな視野から物事を考える力に基づいて、①自分自身の意見を英語と日本語によって伝達し対話をすることができる高度なコミュニケーション能力を修得するとともに、③文化的な背景の異なる人々とも、そのような相違を克服してコミュニケーションができるという精神面での成長を遂げることを教育研究上の目的としている。この新設学部は、多角的な思考力に裏打ちされたコミュニケーション能力、及び文化の違いを乗り越えたコミュニケーション能力の養成を実現するために、英語によるリベラルアーツ型の教育課程の編成と、海外留学などを通じた国際的な学習環境の提供を実現しようとしている。

この新設学部では、英語によるコミュニケーション能力の向上そのものを目的とした授業科目の履修を終えた後に、リベラルアーツ型の教育課程の中で英語による授業を受講する。このリベラルアーツ型の教育課程においては、英語による卒業研究の作成に至る作文プログラムを通じて、②批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力に基づいた、①英語による高度なコミュニケーション能力を養成することにしている。こうしたリベラルアーツ型の教育課程の編成を通じて学生たちは知識の交差点を見出すことが可能となり、それによってこれまでとは異なった視点から問題を分析したり、新たなものを生み出したりするための思考力など、多角的な思考力を身につけることが可能になる。このような教育を、英語による卒業研究に結実するための教育システムとして、学生が選択したテーマに関する英語と日本語によるレポートの作成を継続的に行う「カリキュラム横断型作文プログラム (Writing-Across-the-Curriculum; WAC)」が実施されることになる。また、グローバルな文脈での英語によるコミュニケーション能力を修得するためには、文化的背景の違いを乗り越える精神面での成長が極めて重要な要素となる。このため、語学力としての英語力に加えて、③異文化に対する親しみと寛容の精神を身につけることが不可欠である。新設学部では、日本人学生と外国人留学生が学生寮での共同生活を経験することを通じて、文化の壁を乗り越えるために必要な学習環境を整備するとともに、このような準備期間を経たうえで、すべての学生が海外大学への留学を経験するという国際的な学習環境を提供することによって、このような教育目標を実現しようと考えている。今日のグローバルな文脈での英語によるコミュニケーションは、決して英語を母語とする人々とのコミュニケーションに限定されない点を意識して、留学先大学についても多彩な大学と協定を締結し、それらの大学が提供する英語による教育プログラムにおいて、世界各国から集まった留学生とともに学ぶ環境を提供できるように配慮している。

(2) 新設学部の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

上記に述べた国際リベラルアーツ学部の教育研究上の目的やその実現のために整備した教育課程は、社会的な人材需要の動向に即したものであり、とりわけ、この新設学部が養成しようとする人材像は可及的速やかにグローバル化への対応が迫られている産業界の求める人材像と重なるものであると考えている。また、新設学部の教育課程は、産業界からなされた具体的な政策提言を学士課程教育において実現しようとする試みとなっているものと考えている。

一般社団法人日本経済団体連合会（以下、「経団連」と略記する。）教育問題委員会が平成 23（2011）年 1 月 18 日に公表した『産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果』によると、グローバルに活躍する人材に求められる素質・能力として、多く指摘された項目の上位 3 つを順にあげていくと、(1)「既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持ち続ける」(419 社)、(2)「外国語によるコミュニケーション能力（語学力）」(368 社)、(3)「海外との文化、価値観の差に興味・関心を持ち、柔軟に対応する」(312 社) という結果であった（調査対象の母数は 542 社）ことが明らかにされている（同アンケート結果 6 頁）。このように、新設学部がその教育目標として掲げた「①日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力」や「③異文化に対する親しみと寛容の精神」は、社会的な人材需要の動向と合致しているということができる。また、「グローバル人材育成に向けて大学に求められる取り組み」としてもっとも多く指摘された項目の第 1 位は、「専門科目を外国語で履修するカリキュラムの構築」(271 社) であった（調査対象の母数は 514 社）ことが報告されている（同アンケート結果 15 頁）。この調査では、「海外大学との連携による交換留学やダブルディグリー・プログラム等の実施」(197 社) も第 4 位に挙げられており、新設学部が教育研究上の目的を実現するために採用しようとしている教育課程が求められていることは明らかである。

このアンケート結果の公表後、経団連が平成 23（2011）年 6 月 14 日に公表した「グローバル人材の育成に向けた提言」では、「④大学生の海外留学の奨励」について「外国語によるコミュニケーション能力の向上に加え、異文化への適応力、海外へのチャレンジ精神など、グローバル人材に求められる素質・能力を育成する上で、海外留学は特に有効な手段である。」ことが指摘されており（同提言 8 頁）、新設学部が 1 年間の海外留学を学生に卒業要件として義務付けていることは、このような提言の趣旨を踏まえた教育課程を提供する試みであると考えている。また、この提言では、「(3) 大学に求められる取り組み」のひとつとして「①リベラル・アーツ教育の充実」が挙げられており、そこでは「グローバルに活躍する日本人材は、異なる文化や価値観への関心を持つとともに、日本の文化や歴史、哲学などの学習を通じて、物事を考察する際の基礎となる思考力を身につけることが求められる。」との指摘がなされている（同提言 11 頁）。また、経団連が平成 25（2013）年 6 月 13 日に公表した「世界を舞台に活躍できる人づくりのためにーグローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言ー」においても、「2. 高等教育で求められる取り組み」のひとつとして、「(2) 教養教育（リベラル・アーツ教育）の拡充」が挙げられており、そこでは「グローバルに活躍する人材には、専門分野に関する知識や外国文化・社会等に関する知識だけでなく、多様な分野の教養を身につけておく必要がある」こと、「物事を考察する際の基礎となる論理的思考力や、幅広い視野を身につけさせることが重要である」ことが指摘されている（同フォローアップ提言 11 頁）。新設学部は、リベラルアーツ型の教育課程を編成し学士課程の段階でそれを実現することを通じて「②批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力」を涵養することを教育研究上の目的としており、この点でも提言において示された大学（学士課程教育）に求められる取り組みを実現する教育プログラムを実践できると考えている。また、この新設学部では、ほとんどの授業を英語で行うとともに、独自の教育プログラム「カリキュラム横断型作文プログラム（Writing-Across-the-Curriculum; WAC）」の導入によって、多角的な思考力に基づく英語によるコミュニケーション能力を修得させることを目指しており、このような教育課程は、産業界より示された社会的人

材需要の動向にも、十分に合致するものと考えている。

本学では、新設学部の研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることを検証するために、「山梨学院大学『国際リベラルアーツ学部』（仮称）設置に関するニーズ調査」において企業向けのニーズ調査を実施した。この調査も、株式会社進研アドとの間に業務委託契約を締結して調査の実施を依頼している。調査は、新設学部の研究上の目的を踏まえて、インターネットを通じて、企業の採用担当者に採用意向や新設学部が予定する教育の魅力度を質問した。調査の対象は、本学の既設学部の卒業生が数多く就職している山梨県と首都圏に所在する企業を中心とし、これに海外展開する企業の多い大阪府及び愛知県に所在する企業を加えている。調査の対象としたエリアは、本学の既設学部の卒業生が就職している企業の所在地であり、新設学部の卒業生を想定した場合にも多くの卒業生が就職する企業の所在地として想定することが可能である。調査結果として、426社から有効回答を得られた。

この調査において、新設学部の教育の魅力度を尋ねたところ、質問項目として掲げた4つの項目のいずれについても60%前後の高い魅力度が示されている（「とても魅力を感じる」と回答した者と「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計数で魅力度ははかっている）。具体的には、(A) 英語での授業を通じて、英語によるコミュニケーション能力を修得する点については、「とても魅力的に感じる」との回答が14.8%、「ある程度魅力的に感じる」との回答が49.5%で、両者を合わせると64.3%が積極的な回答を示している。(B) 1年間の海外大学への留学を通じて、高度な英語コミュニケーション能力やグローバルな思考力を修得する点については、「とても魅力的に感じる」との回答が15.3%、「ある程度魅力的に感じる」との回答が47.2%で、両者を合わせると62.5%が積極的な回答を示した。(C) 幅広い教育課程の編成により、多角的な思考力を身につける点については、「とても魅力的に感じる」との回答が10.3%、「ある程度魅力的に感じる」との回答が48.4%で、両者を合わせると58.7%が積極的な回答を示した。(D) 学生寮で外国人留学生と共同生活を体験することによって、異文化に対する親しみを身につけるといった点については、「とても魅力的に感じる」との回答が12.9%、「ある程度魅力的に感じる」との回答が46.9%で、両者を合わせると59.8%が積極的な回答を示した。以上のように、新設学部の特色となっている教育システムについては、いずれも60%前後の高い魅力度が示されている。とりわけ、新設学部の教育の主軸となる英語によるコミュニケーションの修得に関する項目については、62%以上の魅力度が示されており、新設学部の研究上の目的は現在の社会的な人材需要の動向に合致した非常に魅力的なものとなっていると判断している。

また、この調査における卒業生の採用意向について、新設学部が養成しようとする人材像に関しては、「採用したいと思う」／「採用したいと思わない」の二択で質問をしたところ、「採用したいと思う」との回答が46.7%（回答数199社）であり、極めて高い採用意向が示されている。また、上記の質問にあわせて採用予定人数について尋ねたところ、1人との回答が44社、2人との回答が16社、3人との回答が12社、4人との回答が1社、5～9人との回答が3社、10人以上との回答が3社という結果であった。このことから、新設学部の卒業生について、少なく見積もっても161人程度の採用意向が示されていると考えることができ、入学定員80人に対して2倍程度の需要を期待することができると考えている。

以上のように、この調査結果は、新設学部の教育内容が卒業生を採用する企業にとって魅力的なものとなっていること、また、新設学部の卒業生を採用したいという意向を示した企業が入学定員80人の2倍以上存在したことを明らかにしており、新設学部の教育が社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることを示す、客観的な根拠となるものであると判断している。

以上